

全酪連会報 9

2021 SEP No.672



酪農とのかけはし／ 馬上温香さん

(株式会社牛かうVaca 代表取締役社長)

第72年度(令和3年度) 通常総会開催される 【詳細報告】

酪農部だより／
酪農家シリーズに9/1より
新商品が加わります

総務部だより／
酪農を支える人材育成事業に関する新法人
「一般社団法人 全酪アカデミー」設立

第49回 全国酪農青年女性 酪農発表大会②

日本酪農見て歩紀／
株式会社Hamanda Dairy Farm
(佐賀県東松浦郡玄海町)

酪政連活動報告

第49回
全国酪農青年女性
酪農発表大会の動画を
YouTube配信しています!

<https://youtu.be/M6luFZJ6RoM>



全国酪農業協同組合連合会

酪農との かけはし



第33回 株式会社牛かうVaca

牛の魅力伝道師

株式会社牛かうVaca

代表取締役社長 馬上温香さん

【住 所】千葉県いすみ市須賀谷1339-1

【営業時間】ミルク工房 10:00 ~ 17:00

(ラストオーダー 16:00) ※木曜定休

【略 歴】

- ・高校卒業後、カナダへ留学。
- ・2013年ご実家である高秀牧場へ戻り、チーズの販売業務に従事。
- ・2016年高秀牧場ミルク工房を個人事業主としてオープン。
- ・2021年1月株式会社牛かうVaca設立。
代表取締役社長として牧場の加工部門、販売、酪農体験など酪農業務以外を請け負い、現在に至る。

この職業に携わるまでの道のりややりがい

私は酪農家の娘として生まれましたが、酪農には全く興味がありませんでした。高校卒業後、カナダへ留学している間に父がチーズ工房を始め、販売する人手が足りないから戻ってきてくれと連絡があったことで仕方なく手伝ったことからこの仕事に携わり始めました。チーズ販売を手伝う傍ら、千葉県酪農農業協同組合連合会が行うモーモースクールの見学に行きました。ス

クールで酪農家さんの話を聞いて「酪農ってすごい！」と感銘を受け、牛の凄さを多くの方に知ってほしいと思うようになりました。チーズ販売をしていると、お客様はチーズを買いに来ているだけですぐ近くの牛には一瞥もくれず帰ってしまうことに気づき、すごく悲しかったのを覚えています。チーズは牛がいてこそ作られるということを伝えたいと思い、牧場で牛を眺めながらドリンクを飲んだりチーズを食べたりする場所があればと考え、ミルク工房を始めました。

自身の仕事と酪農との関わり

酪農は個人の顔や名前が表に出づらく、一般消費者からは少し遠い世界だと感じています。そこで私が販売や酪農体験を行うことで一般消費者の方へ酪農や牛への理解を広める、酪農家の顔を消費者に見せる役割を担っていきたいと思っています。その為私は、お店では店長という肩書でアイス製造やチーズ販売、酪農体験の開催を行っています。この店のスタッフや自身のことは「牛の魅力伝道



▲ 社長の馬上温香さん

代表取締役社長 馬上温香さん

の

1日のタイムスケジュール

9:00 ▶

出勤

- ・開店準備

10:00 ▶

オープン

- ・お客様対応
(酪農体験なども含む)
- ・事務処理 等

19:00 ▶

退勤



▲ 左:ミルク工房 右:チーズ工房



▲ ミルク工房店内の様子

師」だと言っています。私たちの行う全ての活動が酪農や牛の魅力を発信するためのものだと考え日々仕事をしています。お店に来たお客様がジェラートを食べながら「あの牛たちが牛乳を出してくれているんだね」とか「酪農ってこうなんだね」と理解を得た瞬間を見るととてもやりがいを感じます。酪農を目指す非農家出身者には、子供の頃の酪農体験がきっかけだったりする方も多くいます。そういう機会を提供し、一人でも将来酪農を仕事としてやってみたいという人が増えてほしいです。その為にどう伝えるかを常に考え、伝え方等今後も勉強していかないといけないと思っています。

製品について

ミルクの風味を損なわない製品作りにこだわっています。また、高秀牧場では地方の農家さんに堆肥を出荷しているので、利用して下さっている農家さんの農産物を使用した、地域の農産物や加工品をなるべく使用するようにしています。農業と酪農には密接な関係があります。製品を通して酪農だけでなく農業全体が盛り上がりていければいいなと



▲ チーズ職人の作るこだわりチーズ

思っています。色々伝えたいことはありますが、おいしくなければそもそも人は来てくれないので、何よりもまずはおいしい製品を作ることこだわっています。

今後やってみたいこと

今年中に都市部にジェラート店をもう1店舗オープンしたいと考えています。牛が近くにいない環境の

人々にも酪農・牛について伝えるため、ジェラート店という手法を使いながら人を集め、訴えかけていく店舗作りをしていきたいです。店舗を通して牧場にもいつか遊びに行きたい。酪農体験してみたいという人が増えればいいなと思っています。

酪農の魅力

食料自給率が低い日本で、牛乳は



▲ 素材の味を活かしたジェラート

国産100%。それを支えている酪農家はすごくカッコいい。様々な面で魅力的な職業で、酪農の魅力は一言では言い表せません！酪農は食や命の大切さを伝えられる要素が詰まっていますから、みんなに広まればフードロス等の社会問題も少しずつ減っていくのではないかと思います。

カナダで一人暮らしをしたとき、



▲ 店内に掲示している牛や酪農の情報は手作り
チーズやジェラートを食べながら酪農に興味を持ってもらえるように作成

お金を出して買った牛乳がおいしくなく、すぐく恵まれた環境にいたなと感じる経験をし、おいしい牛乳を作ろうと思って一生懸命牛に愛情を注いでいる酪農家や牛に対する考え方も変わりました。酪農は動物愛護の観点などから色々言われてしまうこともあります。牛から牛乳を頂いているという感覚がどの酪農家にもあり、経済動物だけと愛情をもつ

て接していたり、葛藤があったり、そういう気持ちがある中でちゃんと牛を飼っていることなど様々な背景を知ると、改めてチーズやジェラートを作るとき牛乳を無駄にしているという意識が働きます。

酪農業界に望むこと

牛を大事にしている酪農家もつと発展していけばいいなと思います。牛を大事にすることは酪農の根本だと思いますが、中にはひどい扱いをされる方もまだいらっしゃると思います。一般消費者の方々にもっと酪農の魅力を知ってもらえるよう、愛情をもって牛に接していただき、そういう農家が発展していくことを願っています。

全国の酪農家に一言！

牛をパートナーとして仕事をする酪農家の方々のことを心から尊敬しています！これからも酪農の未来を繋ぐために頑張ってください。

第72年度(令和3年度)

通常総会開催される

詳細
報告



▲ 砂金会長

本会は7月20日(火)コートヤード・マリオット銀座東武ホテル(東京都中央区)において、第72年度通常総会を開催し、令和2年度の事業実績、剰余金処分案、第十二次中期事業計画案、令和3年度の事業計画案および一般社団法人全酪アカデミーの設立発起人となる件などの承認を得るとともに、役員の変更を諮った。

※本文中の役職名は通常総会開催時のもの。

午後1時00分、定刻開始となった総会の冒頭、挨拶に立った砂金

甚太郎代表理事会長は、会員並びに来賓各位の参集に対し、謝意を述べたあと、今年も全国各地に被

害をもたらした自然災害について触れ、被害に遭われた方々に対し、お見舞いの言葉を述べた。

国内の酪農情勢については、「都府県を中心に依然として酪農家戸数の減少傾向が続いている一方で、全国の乳用牛頭数が増頭に転じていることや、生乳生産量も横ばいから回復基調に向いているなど、明るい兆しも見えてきている。ただし、飼料原料価格の高騰や高水準な乳製品在庫など、新たに対応すべき問題も出てきている。」とし、本会ではこうした我が国の酪農が抱える課題に対処するため、「全酪連将来ビジョン」を1年前倒しして改定したことを述べた。

この新しい将来ビジョンは、酪農家がそれぞれに描く豊かな酪農経営

を実現するため、「持続的な酪農生産基盤の構築」をテーマとしており、これに基づく具体策として「第十二次中期事業計画」及び「令和3年度事業計画」の策定を行ったことを述べた。また、その基本施策については①酪農経営環境の安定化、②酪農経営の持続力向上、③酪農生産物の販売強化、④組織運営の効率化と財務体質の充実、⑤ガバナンス強化の5点を柱に展開していると説明した。

続けて砂金会長は、本総会をもって退任する旨を述べ、「新体制のもと、役員が一丸となってこれらの施策を実行していくことで、多くの困難を克服し、日本の酪農が持続可能な産業として発展していくことと信じている。」とした。

最後に、「平成19年に会長に就任して以来14年間、多くの方々に支えられ、この日を迎えることができたことを大変光栄に思う。全酪連の経営安定に微力ながら貢献できたことは、関係者の皆様のお力添えがあったことであり、深く感謝を申し上げますとともに、全酪連への引き続きのご協力をお願いしたい。」として開会の挨拶を締めくくった。

本総会には来賓として、農林水産

省畜産局・伏見啓二審議官、農林中央金庫・岩曾聡常務執行役員をはじめとして、一般社団法人全国酪農協会、日本酪農政治連盟、一般社団法人全国畜産配合飼料価格安定基金からもご臨席をいただいた。

農林水産省畜産局の伏見審議官は来賓挨拶の冒頭で、7月に入り多くの地域で頻発している大雨の被害について触れ、被害に遭われた方々にお見舞いの言葉を述べられた。続けて、「酪農については大規模な廃棄は生じなかったものの、冠水・集送乳の遅れが発生しており、引き続きの警戒をお願いしたい」と呼びかけた。



▲ 伏見審議官

生乳需給については、「生乳生産量が昨年より増加傾向である一方で、需要については、業務用を中心に低調な状況が続いている。こうした中、再度新型コロナウイルスの新規感染者数が増加している一方、国民へのワクチン接種に伴う経済活動の再開も見込まれることから、未だ生乳の需給状況を正確に見通すことが難しく引き続き状況を注視していく必要があると考えている。今後も生産者の所得を確保しつつ、完全処理を行っていくため酪農乳業一体となって牛乳乳製品の需要拡大に向けた取り組み強化をお願いしたい」とした。

つぎに、6月18日に閣議決定された、牛乳・乳製品の生産・流通に関する規制改革について「規制改革実施計画の中で、生乳の取引実態に関する全国調査の実施、その結果を踏まえた生乳取引ガイドラインの作成など、取引の透明性向上を図るための運用改善を行うことなどが、農林水産省の実施事項として示されたところである。農林水産省としては上記を踏まえ、まずは全国的な生乳取引の実態調査を行い、公正な取引が行われている

ないかなど、生乳取引の実態把握に努めていく考えである。」とした。

続けて、令和3年5月19日に公布された畜舎等の建築等及び利用の特例に関する法律について「本法律では一定の条件を満たせば、建築基準法の規定を適用せずに、新たな基準に基づき畜舎が建築できることとしている。これにより畜舎にかかるコストが低減され、国際競争力が向上するものと考えている。今後は施行に向けて畜産農家や専門家の意見を聞きながら、具体的な基準等を作成していきたいと考えている。」とした。

つぎに世界的な動きについて、地球環境問題やSDGsへの対応が加速しているとし、これらに対応した持続可能な食料システムの構築が急務となると述べた。

農林水産省が令和3年5月に策定した「みどりの食料システム戦略」について触れ、伏見審議官は「温室効果ガス削減などの環境負荷軽減、堆肥の高品質化及びペレット化などの資源循環の促進、自給飼料の生産拡大などの取り組みを積極的に推進することで、持続的な畜産物生産の実現を図っていくこととしている。また、生産者のみ

ならず、消費者への理解醸成に向けた働きかけなど、持続的な畜産物生産が図られるようご協力をお願いしたい。」と呼びかけた。

続けて、農林水産省において7月1日付で行われた大規模な組織改編について、「酪農経営をめぐる情勢が変化してきた中、畜産局が20年ぶりに復活した。畜産局は、今後拡大が見込まれる酪農・畜産における国内外に向けた需要に応えるため、生産基盤の強化や輸出の拡大に取り組むほか、輸入飼料への過度な依存からの脱却、労働力不足への対応など、持続的な生産構造を実現していくための政策課題に的確に対応していくので、引き続きの協力をお願いしたい」とした。

最後に伏見審議官は砂金会長に對し、労いの言葉を伝えられ、挨拶を締めくくられた。

また、農林中央金庫の岩曾常務執行役員は、挨拶に先立ち、「梅雨前線の影響による記録的な豪雨が、九州南部および中国地方をはじめとして日本各地に災害をもたらした。被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げ、一日も早い復旧・復興をご祈念申し上げます。」とお見

舞いの言葉を述べられた。

そして、総会開催へのお祝いの言葉とともに、農林中央金庫の業務への理解・協力にお礼の言葉を述べられた後、酪農を取り巻く環境について、次のように述べられた。

「2020年の国内における生乳生産量は、前年対比101%と昨年に引き続き増加となった。北海道に加えて都府県においても、前年比0・1%増と8年ぶりに増加に転じ、明るい兆しが見えた。しかしながら新型コロナウイルス感染拡大の影響や、再延長が繰り返されている緊急事態宣言の発令等に伴い、業務用需



▲ 岩曾常務

要の減少や脱脂粉乳・バターなどの在庫の増加がみられた。足元では新型コロナウイルスのワクチン接種が進んでいるものの、回復の見通しは未だ不透明であり、加えて飼料価格も2020年下期から高騰しているなど、全体としては引き続き厳しい環境が続いていると考えている。」

続けて本会の経営数値面について「中期事業計画の最終年度である令和2年度において、計画を上回る業績を収められたことに加え、狭山工場を譲渡されるなど、経営基盤の強化にも取り組んでこられた。こうした成果は、会員・役職員のご努力並びに砂金会長のリリーダシップの賜物であり、深く敬意を表したい。農林中央金庫としては酪農協系統の振興に向けた金融対応はもとより、酪農関係団体の経営改善の取り組みの支援等、全面的に全酪連の取り組みを支援させていただく所存である。」と述べられた。

最後に、「退任される砂金会長の長年のご努力、ご功績に対し、深く敬意を表したい。」と述べられ、挨拶を締めくくられた。

続いて、木本栄一氏（埼玉酪農業協同組合 代表理事組合長）を議長

に選出した。木本議長は議長就任に際して、総会議案の名称設定について再考すべきとの提言をされた。その後、議事に入り、いずれの議案も賛成多数で原案どおり承認された。



▲ 木本議長

最後に、木本議長は生乳販売の農協委託率や規制改革、消費者への理解醸成の必要性などについて触れ、「新役員体制においても、農協は組織のための組織ではなく、生産者自らが生産者のために立ち上げた組織であるという原点を守って、我々単協を指導していただくことを切に願って議長の任を解かせて頂く。」



▲ 隈部副会長

と述べられ、議事が終了した。

議事終了後、隈部副会長理事が閉会の挨拶に立ち、「木本議長が述べられた専門農協の在り方をしっかりと踏まえ、全酪連は歩んでいきたいと考えている。皆様方には引き続きご協力をお願いしたい。」と呼びかけた。

最後に本総会をもって退任する砂金甚太郎代表理事会長が「全酪連は日本で唯一の酪農専門農協全国連である。そういったことを踏まえてこれからも前進していつてもらいたい。」と締めくくり、第72年度通常総会は終了した。

酪農家シリーズに

9/1 より新商品が 加わります

本会は、1971年に酪農生産者団体が自ら生産する初の国産ナチュラルチーズとして岩手県三戸市で「みちのくゴードチーズ」を生産開始してから50年間、自然で手造りに近い製法を守り抜いてきました。

この50年の間、国民の「食のニーズ」に応える形で国内のチーズ消費量は、拡大傾向が続き、近年では全国各地の酪農家が牧場に併設するチーズ工房を自ら次々に立ち上げるなど、多様で創意工夫にあふれる取り組みが全国で広がるなど、盛り上がりを見せています。

そうしたなか、本会とナチュラルチーズの製造受託関係にある「新生酪農(株)」のチーズ工場新設に本会は技術支援の形で協力を行ってきましたが、我々の工場でも近年、設備老朽化や原料となる良質な生乳の確保などの課題が増すなか、今回の協力要請への対応を契機に「国内酪農生産基盤維持」という目標を共有する同社と共にチーズ製

造・販売に取り組むこととしました。

そして、2021年3月「新生酪農(株)栃木工場」での新たなチーズ製造設備の稼働開始に伴い、2020年12月、本会北福岡工場でのチーズ生産は終了し、新たな「全酪ゴードチーズ」としての歩みが始まりました。

衛生面や安全性が向上した最新の生産拠点で、日本有数の酪農地である栃木産の良質な生乳をはじめとして、こだわり抜かれた原材料を使用しながら、これまでと変わった「オリジナル」な製法で作られた新たな「全酪ゴードチーズ」が4か月間の熟成期間を経てこの9月から出荷されようとしています。

この新たな国産チーズ振興の取組みを通じて、国民の食卓をより安全で安心なものにしていくことと、同時に良質な生乳生産に取組む国内の酪農生産者にとって一層の励みにしていくことが出来ればと我々は考えています。

NEW



全酪 酪農家ゴードチーズ

保存方法：要冷蔵（10℃以下）
賞味期限：製造日から 180 日間
種 類 別：ナチュラルチーズ 125 g 入
製 造 所：新生酪農(株)栃木工場

9/1
発売開始



- 製造開始から 50 年間変わらない製法で、手造り感たっぷりの全酪ゴードチーズが、栃木県に生産拠点を移し“酪農家シリーズ”として生まれ変わりました。
- 新鮮で良質な国産生乳だけを使用した安心・安全な国産ナチュラルチーズなのはもちろん、日本人の味覚に合うおだやかでクセのない風味が特長です。



そのまま切って酒のおつまみに



50 年間変わらない製法で職人がひとつひとつ丁寧に作ります



約 8～9kg の丸い形で
4か月間じっくり熟成されます

NEW



全酪 酪農家めるチーズ

保存方法：要冷蔵（10℃以下）
賞味期限：製造日から 180 日間
種 類 別：プロセスチーズ 80 g 入
製 造 者：(株)エフ・エフ・シー

9/1
発売開始



- ギフト専用商品として人気の“めるチーズ”がこだわりの“酪農家シリーズ”として生まれ変わりました。
- 原料のチーズ・バターは全て国産のものを使い濃厚かつクリーミーでなめらかな食感に仕上げました。
- 食パン、野菜のディップやカナッペなど、幅広い用途でお使い頂ける小容量タイプです。



朝食の食パンにはもちろん



カナッペやディップなど
幅広く使えます

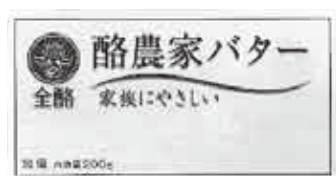


なめらかでのびの良さが特長です



ひと手間加えて
濃厚なチーズソースに

また、“酪農家バター”も 2021 年 4 月より通年取扱を再開しております。



保存方法：要冷蔵（10℃以下）
賞味期限：製造日から 180 日間
種 類 別：バター 200 g 入
製 造 者：全国酪農業協同組合連合会
北福岡工場

酪農家が大切に育てた乳牛から搾った新鮮で良質な生乳から作られた白いバターです。

素材の良さを引き立てコクがあるのに
すっきりした上品な味と香りが特長です。

お求めはお近くの本会支所に電話でお問い合わせください。

なお、8 月 1 日よりインターネットでも商品を直接お買い求め出来るようになりました。

本会ホームページの『乳製品のご案内』バナーをクリックするとショップページに直接アクセスできます。この機会に是非ご利用ください。

➡ <https://zenraku.stores.jp>



酪農を支える人材育成事業に関する新法人

「一般社団法人全酪アカデミー」設立

全酪連は、後継者不足などへの対策として、事業計画に掲げた酪農経営環境の安定化や酪農経営の持続力向上を目指し、酪農就農や牧場従事などを志す担い手を発掘・育成し、就農に繋げることを目的とした新法人「一般社団法人全酪アカデミー」（以下、全酪アカデミー）を、令和3年8月2日(月)に設立しました。

全酪アカデミーは、全酪連と一般社団法人全国酪農協会（会長・砂金甚太郎氏）の正社員と、この事業趣旨に賛同いただける酪農組合をはじめとする農業団体等による賛助会員で構成されます。理事長には全酪連の北池隆代表理事専務が就任し、理事には全酪連の大森一幸常務理事、全酪協会の三国貢常務理事が、監事には森剛一税理士が就任しました。

全酪アカデミーでは、就農を希望する研修生を従業員として雇用し、就農支援プログラム（教育カリキュラ

ム）に基づき、全酪連関連牧場や賛助会員傘下の契約農場等を活用して、酪農就農までに習得したい「搾乳作業」「飼料給与」などの実地研修と「飼養管理」「酪農経営学」「畜産関連法」などの座学研修を実施するとともに、新規就農に向け、就農地の確保、事業継承、資産譲渡などの課題に対し、賛助会員と連携して多面的なサポートを行います。

賛助会員には、新規就農希望者の紹介や、研修生が2年目から行う実践的な研修の場となる研修農場（契約農場）の紹介、研修生の就農候補地の情報提供や第三者継承に係る資産譲渡に関するサポート、その他地域による支援体制作りなど協力していただくこととなります。

現在、賛助会員を募集しておりますので、支所指導組織課あるいは本所総務部酪農を支える人材育成課までお問い合わせください。



▲ 左から森監事、三国理事、北池理事長、大森理事

●就農支援プログラム

時 期	1 年目	2 年目～3 年目	就 農
研修拠点	全酪連関連牧場	契約農場 (繁留式／搾乳ロボット／フリーストール 他)	
所 属	一般社団法人 全酪アカデミー 従業員		
研修内容 及び 就農活動	●若齢子牛・育成牛の管理、 搾乳の基礎研修 ●座学研修	●酪農場での実践研修 ●座学研修 ●就農活動（就農地確保など）	

全酪アカデミー
概要の説明
(令和3年度版)

<https://youtu.be/hiqj39YOH7Y>



全国酪農青年女性 酪農発表大会②

酪農意見・
体験発表の部

矢澤 一郎さん(関信会議)が最優秀賞を受賞！

酪農意見・体験発表の部 審査講評



(公財)日本乳業技術協会
代表理事
栗本 まさ子
審査委員長

審査員を代表して審査結果を発表します。

昨年、コロナ禍で、突然の一斉休校などにより生乳の需給が大混乱して、みなさんご心配だったと思いますが、酪農乳業関係者の一丸となったご尽力により生乳を一滴も捨てずにすんだ、ということが新聞やテレビで報じられ、酪農の大変さ、大切さが都会に住む人々にも伝わりました。マスク不足が問題となって、生きるために

必要なものは自分の国で生産することが大切だ、ということが再認識され、食料自給率の低さを心配し、酪農家さんや農家さんを応援したいという声も高まりました。でも酪農家さんの減少は止まりません。

そのような中で6名のご発表でした。6名の方々の発表を一緒に振り返りたいと思います。



ゼロからの牧場づくり
〜明日への翼〜
東北酪農青年女性会議
清水大翼氏

東北酪農青年代表の清水大翼氏は、お父様と目が合って清水家へやってきたジャージー牛との運命的な

先月号に続き今月号では7月15日(木)に宮城県仙台市にて開催された第49回全国酪農青年女性酪農発表大会(主催・全国酪農青年女性会議、全酪連)酪農意見・体験発表の部の審査講評をご紹介します。

出会いから、魅力的なふるさと鮫川村で酪農をやろうと決め、6次化の夢を持ち、6次化している牧場を自ら探して実習生となって実力をつけ、東日本大震災の影響も乗り越えてNPO法人の人々と力を合わせてアニマルセラピーの役割も持つ牧場部門を設立し、最初の夢をかなえます。

忙しい中でも商工会など地元の活動に積極的に参加し、かけがえのない財産である仲間たち、なによりも、素晴らしいパートナーを得て「ファームつばさ」を独立させます。

次の夢6次化はまず委託製造から始め、チーズ工房を立ち上げ、JGAPの存在を知るや否や、県の担当者らの力を借りて取得をめざし、見事福島県第1号のJGAP

認証農場となります。

ずっと勉強を続け、補助事業や融資、サポートをしつかり活用し、新技術もどんどん取り入れ、夢を実現したらすぐ次の夢をめざしていく行動力がすごい！大変すばらしい発表でした。

これからも奥様と一緒に多くの人々に夢と希望を発信し続けてください。



自分の選んだ道を
ただひたすらに
がむしゃらに
北海道酪農青年女性会議
引頭玉枝氏

北海道酪農青年代表の引頭玉枝氏は、稲作農家ご出身のOLから酪



第49回
全国酪農青年女性
酪農発表大会の動画を
YouTube配信しています！
<https://youtu.be/M6luFZJ6RoM>

農家のどんな様のもとへ。牛があまり好きでなかった上、屋根まで雪に埋まる牧場、どんなは出かけてばかり。家事・育児も酪農の仕事もみんな引頭さんにのしかかかってとても大変だったと思います。腰椎にひびが入っていたとは！いったいどれだけ頑張られたのか、ほんとうによくわかります。

でも、そんな経験をされたからこそ、酪農女の活動に参加して、牛舎・家庭から一旦離れ、みんなで語り合うことの大切さを人一倍強く感じられたのだと思います。たくさんした後輩たちが悩みを聞いてもらい元気づけられているはずです。昭和の酪農夫人としての率直で貴重なご発表でした。

牛の病気のこと、とてもご心配だと思いますが、家畜保健衛生所などの関係機関の力も借りて、息子さんと力を合わせて、清浄化の達成をめざしていただきたい、そして、この機会に、飼養・衛生管理を一層改善して、生産性を向上させ、息子さんの世代にふさわしい牧場を作り上げていただきたいと思っています。審査員一同心から応援しています。



夢は叶う
〜新規就農5年目〜
関東甲信越酪農青年女性会議
矢澤一郎氏

関東甲信酪農女代表の矢澤一郎氏は、JICAにお勤めのお父様と一緒に長く海外で生活され、途上国の農作物栽培を指導する夢を抱き、それをかなえるために進学した大学で牛に出会い、「土↓牛↓人」の自然の循環に魅了され「酪農家になる」が夢になります。まず、酪農ヘルパーとして仕事をしながら就農をめざし、4頭の子牛も買ったのに、当時は国などの支援措置がゆき届いておらずやむなく断念。でも、夢をあきらめることなく子牛たちとともに就職し、15年間酪農に必要な研鑽をしっかりと積み、今度は国の融資をしっかりと活用し酪友らの支援も受け、44歳にして晴れて「酪農家になる」夢を実現します。その後も畜産クラスター事業、乗酪事業など補助事業を積極的に活用し、牛舎環境、飼養管理の改善に取り組み、海外研修生を招いて働き方改革も進めておられ、国や県などの支援制度をとて

もうまく活用された模範例と言えます。「こうやればできるよ!」とおっしゃっているようなご発表でした。「夢をかなえるのに遅いなんてことはない」は、矢澤さんがおっしゃるからこそ、みんなの心に響きます。新規就農を考えている一人でも多くの人に届いてほしい力強いメッセージでした。



「地域貢献できる
酪農家を目指して」
〜伊自良の酪農家の後継者になりました〜
中部酪農青年女性会議
角守仁氏

中部酪農女代表の角守仁氏は、飲食店の店長や販売促進、原価と人件費管理などほぼすべてのことを担当するマネジメント業務に携わっていた角守さんは、厳しい外食産業の現状を肌で感じてこられた。そして、「食品を輸入に頼りすぎる危機感」から供給側にまわろうと、お父様の大反対を押し切って強引に就農してしまします。サラリーマン時代の貴重な経験を生かして問題や課題を見つけ、幅広い専門家から情報やアドバイスを積極的に得て次々と解決

し、それを楽しみ面白いとおっしゃいます。大反対されたお父様をしっかり納得させ、昨年、いよいよ牧場経営を引き継ぎました。

そして、クラスター協議会で耕畜連携を目指しておられます。今、SDGsや循環型社会をめざそうとする動きが国内外で加速化しており、矢澤さんもおっしゃっていた「土↓草↓牛」の循環の主役は酪農家さんです。いろいろ用意されている支援制度を十分に活用し、地域をひっぱって進めていただきたいと思います。

お父様の時代の牧場をドラスティックに変えてこられた角守さんが、経営主となって、さらにアイデア、行動力を存分に発揮し、かわいい後継者のためにいったいどんな会社をお作りになるか、とても楽しみです。



「いっしょに嬉しうを!」
九州酪農青年女性会議
中島千明氏

九州酪農女代表の中島千明氏は、ナカシマファームにおけるご自分の

役割・居場所として、「営業できる人」になろうと決め、3年間営業とHP制作の腕を磨き、「築地の女」となって飲食店や仲卸の方々と仕事をする中で「ゼロから何かを生み出す生産者」に魅力を感じるようになります。しっかりと実績を残し、「築地の女」は惜しまれたでしょう、でも、退職し、就農します。まず酪農

にしっかり向き合って牛や酪農の魅力、頑張る生産者の魅力、地域の魅力などの発信も始めたのち、チーズ作りに取り組みます。ホエイからつくるというブラウンチーズの開発、製品化、受賞は大変すばらしく、新しいコーヒーの飲み方ミルクブリューにも期待が膨らみます。6次化でどうしても難しいとされる営業には中島さんが東京で磨いたスキルを存分に発揮しておられます。女性の多様な働き方を見事に実現し、活躍を推進し、酪農ってどこから入ってきてもいいんだ、というメッセージも感じさせます。酪農の6次化の理想形であり、これからの酪農の姿、新しい可能性を強く感じさせるご発表でした。そして、今後の目標や大きな夢を明確にお持ちです。その実現に向け力強く発信を続けてい

ただきたい。中島さんの夢の実現を心から願っています。



こんにちは
もーちゃん

西日本酪農青年女性会議
吉田裕美氏

西日本酪農青女代表の吉田裕美氏は、非農家出身で旅館にお勤めだった吉田さんは、動物は好きだけれど牛は大きすぎて苦手で酪農は絶対やりたくなかったとおっしゃっています。が、簿記の勉強から始め、研修会に参加したりする中で、おいしい牛乳を作るためにかかわるたくさんの方々の思いを知り、酪農に携わってみたい気持ち芽生え、人工授精師の資格を目指して勉強し、本格的に酪農に携わっていきます。女性部の活動にも参加し、よい仲間から良い刺激をもらい、食育活動で自分なりの手段を考え、牛の絵で紙芝居を、と考えたところ勧められて、絵本「こんにちはもーちゃん」ができました。このすてきな絵本から、よみかせなどの活動が大きく広がって、酪農を知らない方々、小さ

なお子さんから大人にまで、牛のこと、酪農のこと、生産者の思いなどを伝えることができるようになります。そして、コロナ禍で新たな形を模索しつつ活動が続ける中で、牛が私たちに与えてくれるもの、1本の牛乳に携わる人々の思いなどを伝えるもう1冊の絵本「ありがとうもーちゃん」が誕生しました。とても魅力的な2冊の絵本は、吉田さん

この6名のご発表を通じて、私たちは、令和の時代の酪農家さんの働き方改革、さらには生き方改革のような変化、これからの新しい可能性が見えたような気がしました。

その中で、最優秀賞は、慎重審議の結果、

- 酪農家さんや酪農を始めようと思っている人たちが元気になる力

- 酪農をやってみたい、酪農家さんになりたいと思わせる力

- 酪農の理解者、応援団を増やす力が最も強かった、そしてさらに強くなりそうな「44歳で夢をかなえた男矢澤一郎さん」に決定いたしました。

発表者のみなさま、ほんとうに素晴らしいご発表でした。どうか、令

が「牛を飼う人」だから描けたものの、だからみんなに伝わるのです。もーちゃんの絵本を、1人でも多くの「牛に触ったことのない人々」に手に取っていただきたいと思っています。どうか、絵本以外の創作活動にもどんどんチャレンジなさって、牛のこと、酪農のことなどを全国に向けて発信してください。楽しみにしています。

和の酪農ってこんなにいいよ！一緒にもっと良くしていこう！と発信を続けてください。審査員一同声を大にして応援し続けます。

発表者のみなさま、ご家族、地域や関係者のみなさまに、改めて心からの敬意を表し、深謝して審査講評といたします。ありがとうございます！

来年は、7月14日(木)～
15日(金)に東京都江東区
「ホテルイースト21東京」
にて開催予定です。
皆さまにお会いできる
ことを楽しみにしております。

見と歩紀

No. 339

株式会社 Hamanda Dairy Farm
佐賀県東松浦郡玄海町

がばいおいしか佐賀ん牛乳ば、
みんなに飲んでほしか！

地域の紹介

(株) Hamanda Dairy Farm がある玄海町は、佐賀市から北西へ約50km、福岡市から西へ約60km、東松浦半島の西側中央に位置し、西に接する雄大な玄界灘に面した美しいリアス式海岸は玄海国定公園に指定されており、遠くは壱岐対馬を展望することができます。玄界灘を通る対馬暖流の恩恵を受けて比較的温暖な気候と全国でも有数の漁場を有しています。

また、牧場近くには、日本の棚田百選にも選ばれた『浜野浦の棚田』があり夕日に愛されたまちと言われるほど美しく、海岸から駆け上がる283枚の田んぼが幾重にも連なり、四季折々の表情を見せてくれます。この地はプロポーズにふさわしいロマンティックスポットとして「恋人の聖地」にも選定され、茜色に染まる棚田や月に輝く棚田、菜



▲ 夕日に染まる浜野浦の棚田

の花咲く棚田を見つめながらプロポーズするカップルも多いとか。コロナ禍が終息した際は是非とも足を運んでいただき牧場で製造する美味しいアイスを食べに来て頂ければ幸いです。

▲ 後列左から、父(忠久さん)、浩文さん、奥さま(裕子さん)、センさん、前列左から、ゴックさん、母(つたえさん)、次女(真穂さん)、三女(麗さん)、長女の春佳さんは部活で留守でした

佐賀県東松浦郡玄海町



▲ フリーバーン牛舎



▲ 海と風車が見える風通しの良い牛舎



▲ 牛舎内

牧場の沿革・概要

(株) Hamanda Dairy Farm が所属している、唐津農業協同組合（堤武彦代表理事組合長）ならびに県域機能有する佐賀県農業協同組合（大島信之代表理事組合長）は酪農家戸

数36戸（令和3年3月末）、令和2年度の生乳受託乳量は14,063tとなっています。

今回お話を伺いました代表取締役の松本浩文さんは3代目で平成24年に父の忠久さんより経営継承されました。祖父の代から徐々に増頭し現

在地に牛舎を移築、その後フリーバーン牛舎を増改築し、アイス工房の立ち上げを経て、今夏、法人化されました。現在はフリーバーン牛舎、アブレストパーラーで搾乳牛128頭を搾乳しています。

まず、社名である(株) Hamanda Dairy Farm の「ハマンダ」とは、地元住民が浜野浦地区をこう呼ぶ所から名付け、浜野浦にある牧場を意味しています。

作業は、浩文さんと父、母のつたえさん、海外技能実習生2名で行っています。奥さんの裕子さんは主に経理関係を担当されており、佐賀県内で唯一全酪連のDMS（酪農家経営管理支援システム）を活用して経営管理・分析を行っています。

日々生産される生乳は、敷地内のアイス工房で自家処理するとともに大半をJAを通じ佐賀県内の乳業者に出荷されており、特に厳しい乳質環境基準を求められる農家指定を受けた優良牛乳として製品化されています。

経営の特徴

地勢的に広い採草地の確保が難しい点や労働力の効率化を考えるとオール購入飼料で賄っています。また、後継牛の確保は計画的に全酪連北海道預託事業を利用しつつオール自家育成しており、ゲノム解析を活用し足腰の強い、且つ高乳質の牛群作りを目指しています。

● (株) Hamanda Dairy Farmの歩み

		内 容
昭和	33年	祖父が搾乳牛1頭を飼育開始
	50年	父が経営継承、つなぎ牛舎建設、搾乳牛30頭に規模拡大
平成	7年	浩文さん就農、つなぎ牛舎増床、搾乳牛50頭に規模拡大
	9年	フリーバーン牛舎増築、搾乳牛70頭に規模拡大
	16年	フリーバーン牛舎へ全面改築、搾乳牛100頭に規模拡大
	24年	浩文さん経営継承
	27年	アイス工房 milly's（ミリーズ）をスタート
令和	3年	法人化、(株) Hamanda Dairy Farm 設立（8月2日）増頭を続け搾乳牛128頭・育成牛53頭を飼育

生乳出荷では農家指定を受けているので、乳質基準をクリアするためには飼養管理に気を配っていることが乳量や繁殖に好影響をもたらしているそうです。

一方、戸別の検査報告が毎日あり、合乳でクリアすれば良いのではなく、他の指定農家に迷惑を掛けないように乳質を維持しなければ、との思いも強く結構プレッシャーに感じるところもあるとの事です。

アイス工房 milly's (ミリーズ)

ミリーズの由来は、父の忠久さんが共進会で何度も優勝した思い入れのある乳牛の名前です。浩文さんに経営移譲した忠久さんは、「牧場運営の他に何か打ち込めるものを」と6次産業化に取組みアイスの製造販売を始めました。イタリア製のジェラートマシンを導入し牧場搾りたての生乳に地元産のイチゴやミカンを使用して手間をかけて製造しています。ふるさと納税の返礼品として取り扱いが増えて経営も軌道に乗り、百貨店やサービスエリアなど販売先も徐々に増えているそうです。最近では、コロナの影響もあり売上が減少しましたが、玄海

町独自のコロナ支援策である町内限定商品券の配布もあり回復の一助となっているとの事でした。

将来を見すえた法人化

取材に伺ったのは、(株)Hamanda Dairy Farmとしてアイス工房を含めて登記が終わって程ない頃でした。お祝いと共に法人化の切っ掛けや目的をお聞きました。

▼ 濃厚な味わいでした



▲ 牧場の隣で販売しています

浩文さんから、「随分前から考えていたが踏ん切りがつかず、良い税理士さんとの出会いもあり今回のタイミングで会社設立に踏み切った。大きな理由は後継ぎの事を考えて、個人の相続よりも法人の方が事業承継がしやすいと判断した。また、社会的信用を得やすく、取引先や金融機関から安心して付き合えると思ってもらえる上、福利厚生や保険、休

暇などの整備で雇用面でも人材が集まり易く、規模拡大に向けて将来像を描きやすくなると決断に至った。」と説明して頂きました。

将来的に規模拡大していく事、また佐賀県では家族経営の中小規模農家の離農が問題なので、廃業された遊休施設を活用し次世代が就農しやすい環境を整えるなど地域の酪農を守っていく事が浩文さんの目指すところです。

DMSの利用

佐賀県内で本格的にDMSを利用しているのは松本さんだけという事で、経理を担当している奥さんに話を伺いました。

裕子さんから、「すごく助かっている！平成24年に義母より経理を引継いだ頃は手計算が大変だったので農業専用会計ソフトを使い始めたけれど、北海道預託牛の対応ができず家畜台帳作成にすごく苦労していた。『酪農なら全酪連のDMSが良い』と薦められてお願いしたのが切っ掛けです。県内1戸にもかかわらずDMSや佐賀県担当者の献身的な協力に感謝しています。先々週も経営診断で来てもらった



ばかりです。」

また「牛舎に入る機会は少ないけれど、入力していると牛舎や経営の状態を感じることができ、更に経営分析してもらった問題点や改善点が自分の考えと違ってない事で自信を持って修正していきます。税理士さんでも数字の分析はしてくれませんが酪農の技術とリンクしたアドバイスを得られるところにメリットを感じます。」と評価を頂きました。

お二人からは、「DMSはサービス業っぽくなっていくけれど、全酪連に希望するのはもう少し料金を上げてもいいから、担当者を増やしてサポート体制や機会を充実させてもらいたい。」との要望も頂き、DMSが酪農を支える大切な取組であると再認識しました。



▲ DMS入力中の裕子さん

コロナ禍のなかで

浩文さんは、同志会や佐賀県酪農協議会の役職を担っており、共進会や研修会などで情報交換する事、酪農家同士や酪農関係者とゴルフや飲み会でワイワイやる事が楽しみの一つでした。新型コロナ感染症拡大のため、様々な交流が制限され刺激を受けて酪農に取り組む機会が減った事

がストレスでもありモチベーションを保つことが難しく、周りの何気ない交流の重要性に気が付いたそうです。

全国の酪農家に向けて一言いただきました。「悶々とされている酪農家は少なくないと思います。こんな時だからこそ酪農家同士で情報交換を密にしてお互いを高めて、コロナをぶっ飛ばしましょう。」

最後に

取材日は生憎の大雨、以降は佐賀県でも浸水や土砂崩れ、生乳廃棄などの被害が発生しています。全国的な豪雨となり被害を受けた方々にお



▲ 共進会への参加

見舞い申し上げます。

加えて、九州・沖縄でも新型コロナウイルス感染症の第5波が拡大する中で取材をお受けいただきました(株)Hamanda Dairy Farmの皆様により感謝申し上げます。これからの佐賀県酪農を牽引されていける事を期待しております。(S・T)

酪政連活動報告

日本酪農
政治連盟

令和3年7月～8月

7/20～21 北海道酪農協会要請活動に同行（農林水産省・衆・参議員会館）

農林水産省訪問。森畜産局長と面談。
令和4年度酪農関連対策・予算について要請を行う。

8/2



▲ 佐藤委員長より森畜産局長へ要請書を手渡す

8/3

正副委員長会議開催（WEB 開催）
（今後の活動方針・要請内容について協議）

原稿募集

「酪農トピックス」では皆様からの記事を募集しております

共進会、B & W、酪農祭り、親睦スポーツ大会といった催事情報から組合住所の変更や移転等案内情報、そして直営店情報や組合の自慢情報まで、酪農トピックスでは会員の皆様からの原稿を募集しております。本コーナーは会員の皆様の情報交換の場です。ぜひご活用ください。

送付先

皆様のお近くにありますが本会支所までご送付・ご連絡ください。

■札幌支所

〒060-0003

札幌市中央区北3条西7丁目1 酪農センター5階
tel. 011-241-0765

■仙台支所

〒980-0021

仙台市青葉区中央1-7-20 東邦ビル3階
tel. 022-221-5381

■東京支所

〒151-0053

東京都渋谷区代々木1-37-2 酪農会館4階
tel. 03-5931-8011

■名古屋支所

〒460-0008

名古屋市中区栄1-16-6 名古屋三蔵ビル3階
tel. 052-209-5611

■大阪支所

〒532-0011

大阪市淀川区西中島5-14-10 新大阪トヨタビル6階
tel. 06-6305-4196

■福岡支所

〒812-0016

福岡市博多区博多駅南1-2-15 事務機ビル7階
tel. 092-431-8111

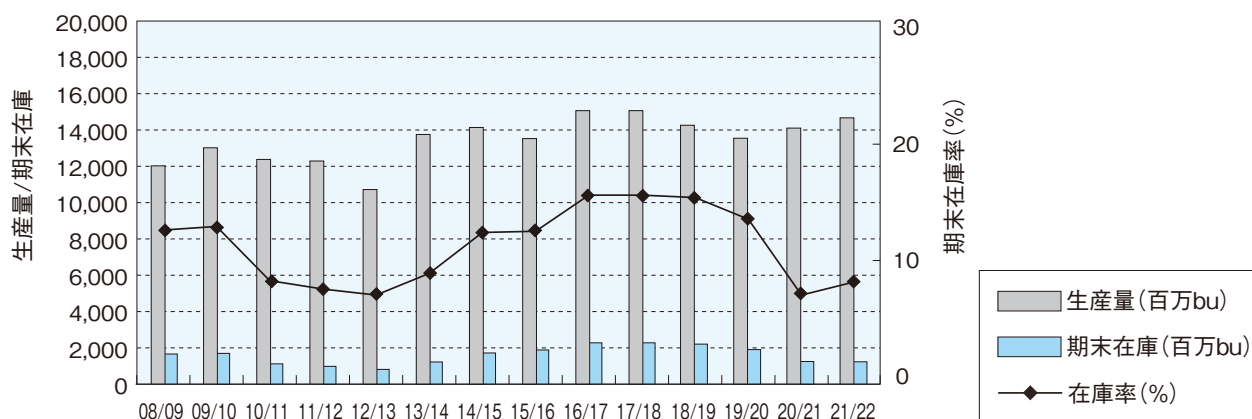


原料情勢

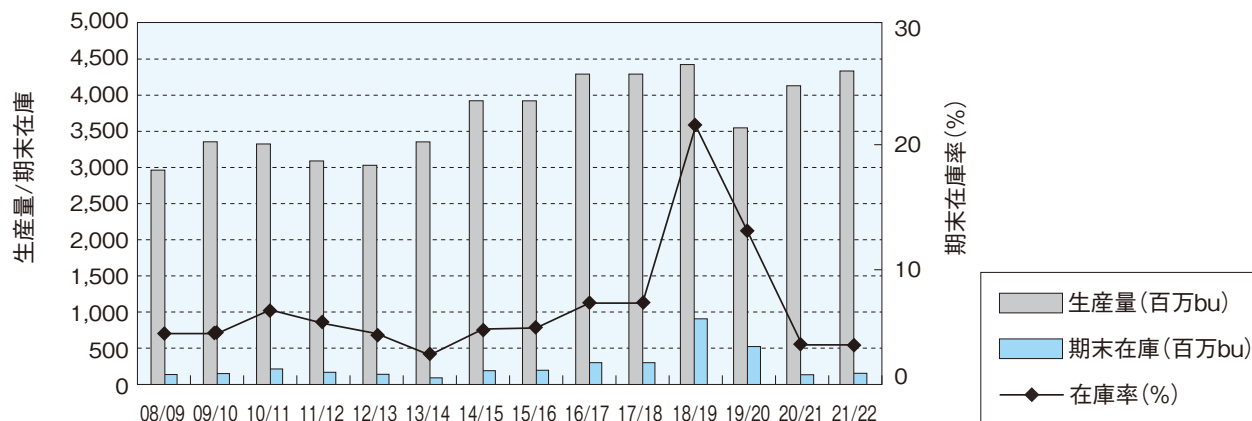
令和3年8月

		20/21年産	21/22年産
8月12日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積(百万エーカー)	90.8	92.7
	単 収(ブッシェル/エーカー)	172.0	174.6
	生 産 量(ブッシェル)	141億8,200万	147億5,000万
	需 要 量(ブッシェル)	150億1,000万	146億5,000万
	期末在庫(ブッシェル)	11億1,700万	12億4,200万
	在 庫 率	7.44%	8.48%
トウモロコシ 相場動向	引き続き天候相場が続いているが8月の需給報告で生産量の下方修正がされ、世界期末在庫のタイト感が意識されるとシカゴ相場は再び高騰した。米国でのトウモロコシ生育状況は依然として北西部でのコンディションが悪く米国全体の生産量の足を引っ張っている状況。南米でも生産量の下方修正が行われ依然として需給のタイト感は続いていることから相場は引き続き堅調に推移する見込み。		
大豆粕相場動向	7-9月期平均に比べ安値にあるものの、中国産大豆粕は現地価格が引き続き堅調なことから近海船フレートの上昇より相場は底堅く推移している。国産大豆粕は、引き続き先行き不透明な状況にあることや、輸入大豆価格が高止まりしていることから強気の相場展開が続いている。		
糖 類	【一般フスマ】 小麦粉の生産が前年を若干下回って推移しており、引き続きふすまの需給は逼迫している。米糠等もふすま同様に逼迫していることから糠類の確保が厳しい状況となっている。		
	【グルテンフィード】 国産はコロナ禍の昨年と比較しても発生が減少する見込みで、10-12月期は年末に向け需給が非常に逼迫する見通しとなっている。中国産も発生量の減少と原料トウモロコシ価格が堅調に推移していることから相場は引き続き堅調に推移している。		
海上運賃	国産はコロナ禍の昨年と比較しても発生が減少する見込みで、10-12月期は年末に向け需給が非常に逼迫する見通しとなっている。中国産も発生量の減少と原料トウモロコシ価格が堅調に推移していることから相場は引き続き堅調に推移している。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



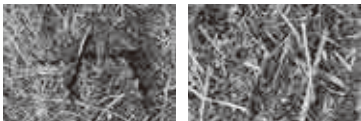
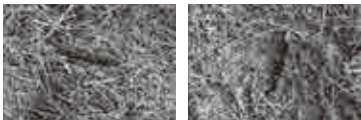
米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

令和3年8月

北米コンテナ船情勢	ロサンゼルス・ロングビーチ港沖合での滞船状況は悪化しており、現在20船を超えるコンテナ本船が滞船しています。直近のオークランド港沖合でのコンテナ本船の滞船数増加を受け、船社によっては混雑の回避を目的とし7月よりオークランド港の抜港を実施しています。その結果オークランド港に近いロサンゼルス・ロングビーチ港でのコンテナの荷役量が増加しており、港湾の混雑状況が再び悪化し、PSW発の本船スケジュールが乱れ始めています。PNWでは6月にカナダにおいて熱波が襲い、内陸からバンクーバー港を結ぶ鉄道沿線で山火事が発生しました。この影響でコンテナ輸送をしている鉄道で一時運航停止があったため、カルガリーから出荷されるカナダ産チモシーでもスケジュールの遅延が発生しています。
ビートバルブ	【米国産】 ミシガン州では理想的な天候が続いて降雨量にも恵まれたものの、ノースダコタ州やモンタナ州では降雨量が少なく、地域によってビートの収量低下が懸念されています。産地相場は、シカゴ相場の穀物高騰により内需及び海外からのビートバルブの引き合い強く、21-22年産ビートバルブ価格は大幅に上昇する事が懸念されています。
アルファルファ	【ワシントン州】 主産地であるコロンビアベースンでは、2番刈の収穫作業が終盤を迎えています。南部では3番刈の収穫が間もなく開始されます。例年、ワシントン州の産地相場は輸出向けが牽引しますが、21年産は、好調な乳価の中国に加え米国内の酪農家及び肥育農家も積極的に買付しており、相場を押し上げています。穀物相場が高騰し、米国内の酪農家がアルファルファの給与量を増加させていることや、西海岸で直面する厳しい早魃の影響で自給飼料の生産が少なく、州外からも産地に買付が入っていることが背景にあります。 【ネバダ州】 北部ウィナマッカ地区では2番刈の収穫作業が終盤を迎えています。品質はややドライなもの色目のきれいな上級品が収穫されています。1番刈は地域により降雨被害がありましたが、収穫作業は概ね順調に進み、作柄自体は例年並みとなっています。一方西部のイエリントン地区は早魃が厳しく農業用水の使用が制限されているため、生産量は減少しています。産地相場は近隣のカリフォルニア州の酪農家からの引き合いが強いことから上昇しています。  ▲ ネバダ産1番刈アルファルファ 7月下旬撮影 【ユタ州】 ユタ州では1番刈の収穫を終え、現在2番刈の収穫作業が終盤を迎えています。1番刈、2番刈ともに天候に恵まれたため、大きな雨当たり被害がなく収穫できており、高成分な上級品も発生しています。同州は他州に比べ早魃状況が深刻で、生産者によっては、活用できる農業用水に限りがあるため、例年に比べアルファルファの圃場を減らすなど対応し生産を続けています。 【オレゴン州】 オレゴン州南部クラマスフォールズでは1番刈は終了し、現在2番刈が収穫されています。1番刈の収穫作業は天候にも恵まれ、大きな降雨被害もなく終了し上級品が発生しています。一方で産地では早魃の影響で、例年よりも地下水の貯水量が低く、圃場への散水量を減らしながら生産しているため、例年よりも1～2週ほど生育が遅れており、収量は例年と比べ20%～40%程度減少しています。同州中部クリスマスバレーでは1番刈の収穫作業は終了しており、2番刈の収穫がこれから開始されます。1番刈は収穫期に断続的な降雨があったため、雨当たり品が多く発生しており、上級品の発生は限定的です。他地域同様、放牧草及び自給飼料が不足している、同州及びカリフォルニア州の酪農家からの引き合いが強くなっており、産地相場は上昇しています。  ▲ オレゴン産1番刈アルファルファ 7月下旬撮影
チモシー	【米国産】 主産地であるワシントン州コロンビアベースンでは1番刈の収穫作業が終了しています。コロンビアベースン北部から中部にかけて6月中旬にあった降雨により、一部で雨当たり品が発生したものの、21年産は大半が中級品以上の生産となっており、下級品の発生が少ない珍しい作況となっています。もう一つの主産地である同州エレンズバークでも1番刈の収穫作業を終えています。一部の圃場で雨当たり被害が出たものの、収穫期に好天が続いたため上級品が中心に生産されています。産地では現在2番刈の収穫が開始されています。コロンビアベースンでは多くの圃場でチモシーの生産を1番刈で終え、2番刈よりも換金性の高いトウモロコシや豆類などへの転作が進められています。産地相場は発生量の少ない下級品の引き合いも強いことから価格は大きく上昇しており、21年産は20年産に比べ上級品と下級品の価格差が小さくなっています。 【カナダ産】 アルバータ州南部レスブリッジ地区では1番刈の収穫を終えています。生育期に早魃及び熱波に直面したため、産地では立ち枯れた圃場も散見されました。この影響で単収は例年に比べ20%～30%程度低くなっています。作況としては収穫期に天候に恵まれたため、南部では大半が中級品以上となっており上級品も多く発生しています。一部で下級品も発生していますが、自給飼料が不足している内需向けに成約されており相場が底上げされています。アルバータ州中部クレモナ地区では7月中旬より1番刈の収穫が開始され、8月中旬までに収穫は終了する見込みです。
スーダングラス	産地では1番刈は終盤を迎えており、圃場によっては2番刈の収穫が開始されています。7月は最高気温43℃前後、湿度が50%-60%と8月並みの天候が続きました。色目の鮮やかな品質の発生は少なくなっており、色目のぼやけが目立ち、茎が固く、茶葉の混入した品質の生産が増えていきます。一方、米国内でコロナウイルスに対するワクチン接種が広まり、外食産業が再開したことから、野菜に対する需要が高く高値で取引されているため、21年産は2番刈を収穫せずに冬野菜へ転作準備を行う圃場が多くなっています。このため21年産スーダンの生産量は昨年に比べて15%-20%減少することが見込まれています。産地相場は引き続き輸出業者、内需へ旺盛に取引されており、低級品の価格も昨年と比べ上昇しています。
クレイングラス	クレインは全酪連の登録商標です。 主産地インベリアルバレーでは3番刈の収穫が終盤を迎えており、圃場によっては4番刈の収穫が開始されています。7月に入り湿度も発生しており、色目の脱色した品質も散見されています。また産地では刈遅れた低級品でも自給飼料の不足した内需からの引き合いが強いため、生産者によっては単収を増やす動きも出ています。このため3番刈では茎が太く、硬い品質が増加している印象です。
ストロー類	主産地であるオレゴン州ウィラメットバレーではフェスキュー、アニユアルライグラスストローの収穫作業が概ね終了しています。ベニアルライグラスストローは、これから収穫が本格化します。21年産は早魃の影響で、ストローの収量が減少しており、例年と比べるとストローは60%程度の生産量になることが予想されています。産地では生産量の減少及び旧穀からの繰り越し在庫がない状況で、21年産の買付が進められているため、産地相場は強含みで推移することが懸念されています。
オーツヘイ	【豪州産】 西豪州、南豪州では断続的な降雨があるため、一部の圃場では若干土壌水分が高くなっていますが、順調に生育しています。東豪州ではやや土壌水分が少ない印象で、8月の降雨量にもよりますが、単収が例年以下になる可能性があります。需要については、各地で降雨があったため、放牧草が十分に生育しており、豪州全体で内需からの引き合いが弱くなっています。生産者の倉庫には輸出に適さない雨当たり品の在庫があるため、21年産の新穀に向け在庫整理のため内需向けに安価で販売されています。
豪州海運情勢について	中国では、上海港を中心に空コンテナ不足に陥っており、今後クリスマス商戦に向けた輸出の最盛期を迎えるため、船会社によってはフリータイムの大幅な短縮を実施し、早期に空コンテナを中国に集める動きが顕著になっています。一部の船社では豪州の輸出業者に対し日本への入港後、港湾で出荷待ちとなっているオーツヘイを早期に出荷し空コンテナの返却が完了するまで、豪州からの船積み予約を受け入れないアナウンスするケースも発生しています。

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇐……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	35~45	→	札幌管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で96.4%、累計で96.9%、苫小牧管内月計で96.2%、累計で98.2%の実績となっております。9月の初妊牛動向といたしまして、11月分娩が中心となります。9月の購買は秋分娩が中心となるため、相場はやや強含みに推移すると予測されます。初妊牛資源については、腹別では雌雄選別腹の出場頭数がF1腹と比較すると減少しております。価格はF1腹の上クラスの牛で75万円/頭程になっております。出回り頭数は少ない地域ではありますが、優良牛や高能力牛の多い地域でもありますので、ご希望がございましたらお問合せください。
	初妊牛	65~75	⇐	
	経産牛	40~50	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	35~45	→	根釧管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で101.5%、累計で101.2%、中標津管内月計で104.8%、累計で103.4%の実績となっております。9月の初妊牛動向といたしまして、11月分娩が中心となります。8月の管内乳牛市場がやや強含みで推移したことから、庭先購買価格も同様にやや強含みとなるものと思われます。腹別ではF1腹、和牛授精卵移植腹は堅調、雌雄選別腹は出回り頭数が多いことから、やや弱含みの展開が予想されます。和牛授精卵移植腹は本牛、受精卵ともに良いものであれば90万円/頭以上の相場となっております。経産牛価格も初妊牛同様、やや強含みとなってきております。
	初妊牛	67~75	⇐	
	経産牛	42~47	⇐	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	38~48	→	帯広管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で103.8%、累計で104.1%の実績となっております。9月の初妊牛動向といたしまして、11月分娩が中心となります。管内の乳牛市場が6月より8月まで毎月1回の開催でしたが、9月からは毎月2回の開催となります。頭数が多い状況が続いておりますが、道内の需要が依然として高いことから、秋分娩になることから、相場はやや強含みに推移すると予測されます。初妊牛の資源につきましては、雌雄選別腹の出場頭数が減少しておりますが、頭数は確保できる状況となっております。
	初妊牛	65~75	⇐	
	経産牛	43~53	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	36~46	→	道北管内の8月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で97.2%、累計で98.6%、北見管内では月計で101.8%、累計で102.4%の実績となっております。9月の初妊牛動向といたしまして、11月分娩が中心となります。秋分娩に入り、道内・道外ともに需要が上がり始めているため、相場はやや強含みで推移すると思われます。F1腹や稀に出てくる和牛授精卵移植腹の引合いは堅調に動いていますが、雌雄選別腹は資源頭数が増えていることもありやや軟調に動くと思われます。出回りは少ないですが、産次の少ない経産牛の需要も引き続き堅調であるため、横這いの相場になると予測されます。
	初妊牛	64~74	⇐	
	経産牛	40~50	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	35~45	→	道内の8月中旬までの生乳生産量前年比は102.1%、累計で102.1%の実績となっております。今年の夏は、干ばつ・高温が続く乳牛への暑熱ストレスや2番草・デントコーンの収量が危惧されています。11月分娩腹中心となる9月の相場ですが、秋分娩となるため需要が見込まれ、やや強含みで推移するものと思われます。資源状況は各地域で腹別による増減は多少あるものの全体的には十分確保できるものと思われます。出回り頭数は多いため、秋以降も大きな相場の上げは無いものと思われ、比較的導入しやすい環境になるのではと予測致します。弊社としましては、庭先選畜購買を中心に要望に合った搾乳素牛を供給して参りたいと思いますので購買計画がありましたら、ぜひ弊社担当者までご連絡頂きますよう、どうぞ宜しくお願い致します。
	初妊牛	65~75	⇐	
	経産牛	40~50	→	

お詫びと訂正

本紙7月号(No.670)5ページに掲載しました第47回 らくのうこどもギャラリー 入賞作品紹介に誤りがありました。謹んでお詫び申し上げますとともに、訂正いたします。川端さんの作品は本誌裏表紙にて紹介しています。

<誤> 入選2:川端 泰幸

→

<正> 入選2:川端 恭幸

今月の表紙

今月の表紙は「第11回 酪農いきいきフォトコンテスト」に応募頂いた作品「ひとやすみ」(愛媛県星川安徳氏 撮影)です。



編集後記

- 第49回全国酪農青年女性酪農発表大会の動画を配信しておりますので、たくさんの方にご視聴いただければ幸いです。
- 9月に入り、TOKYO2020オリンピック・パラリンピックも閉会を迎えましたが、コロナウイルスの終息はまだまだ先が見えません。残暑も厳しい日々が続くようです。体調には十分お気を付けください。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。
shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

令和3年9月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 9月号 No.672

●編集・発行人 工藤文彦

●発行 全国酪農業協同組合連合会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館

TEL 03-5931-8003 <http://www.zenrakuren.or.jp/>

今月の

らくのう

こどもギャラリー

入賞作品紹介



はあとちゃんを観察

豊富小学校 4年(中部) 川端 恭幸

今月の入賞作品は…

豊富小学校 4年(中部) の川端 恭幸さんの作品です。

クレヨンと水彩絵の具で描かれた作品です。スピード感のある線と水彩の荒々しいタッチが躍動する生命力を感じさせる見事な作品です。牛さんを左に寄せて画面右側の空間を大きく開けた構図にもセンスを感じます。足を何度も書き直していて観察すること、描くことに集中して真剣に向き合っている事が伝わってきます。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第47回らくのうこどもギャラリー」で全国198点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議